

刻む会

たより

NO. 90

2023年10月20

長生炭鉱の水非常を歴史に刻む会

共同代表

井上洋子・佐々木明美

事務局 宇部市常盤町一―一九(宇部緑橋教会内)
TEL0836(21)8003

TEL0836(21)8003

TEL0836(21)8003

TEL0836(21)8003

カンパ振込先

ゆうちょ銀行 □座番号 01590・7・32405

名義

長生炭鉱の「水非常」を歴史に刻む会

年会費

《正会員》個人3,000円 団体5,000円
《賛助会員》個人1,000円 団体2,000円

ホームページ

https://www.chouseitankou.com

メール chouseitankou@gmail.com

国との意見交換会に 全力でご支援ください!

12月8日(金) 15時

衆議院第一議員会館 国際会議室

共同代表 井上 洋子

コロナのために交渉が中断していましたが、来る12月8日(金)に厚生労働省・外務省との第3回意見交換会の開催を決定しました。ここへの皆様の結集と韓国遺族会の来日経費等のカンパを心より訴えます。

安倍政権下で冷え切っていた日韓関係は、その関係改善に向けて動きだし、1998年の小淵首相と金大中大統領の「日韓共同宣言」に立ち返ることが確認されました。その宣言で日本政府は「過去の植民地支配に対する痛切な反省と心からのお詫び」を表明しています。

ここから朝鮮半島出身民間労働者の遺骨の調査・返還問題が政治課題として浮上してきました

が、「謝罪」を拒む日本政府のこの間の強硬な姿勢が、国内に安置されている遺骨の政府レベルでの返還の前に立ちどかっています。良くも悪くも、長生炭鉱の犠牲者の遺骨発掘に向けた好機が訪れています。

戦時下のエネルギーはひとえに石炭産業に頼っていたのであり、長生炭鉱でも事故の起きた1942年2月3日は「大出しの日」とされて、出水が続く落盤の危険があったにもかかわらず、天盤を支えていた炭柱すら払い出して政府の増産にこたえようとしたのが、事故の直接の原因だと言われています。

日本の無謀な戦争遂行のために183人もの命が奪われ、81年たっても犠牲者の遺骸を海底に放置してきた日本政府のあり様は、人道上からも国の責任上からも許されるものではありません。

長生炭鉱の遺骨発掘に向け、今こそ日本と朝鮮半島の市民の力で、日本政府がその一歩を踏み出すよう、大きな世論を盛り上げていきましょう。12月8日とその歴史的「始まりの日」にしていきたいと思います。

長生炭鉱の遺骨を故郷と家族の元へ 12.8 国との意見交換会のご案内

日時: 2023年12月8日(金) 15時より
場所: 衆議院第一議員会館 国際会議室



長生炭鉱水没事故犠牲者のご遺骨に共に心を寄せ、くださる全国の皆様、私たち「刻む会」の「遺骨発掘・返還」に向けた決意を述べ、来る12月8日の国との意見交換会に全力でご支援を賜りますようお願いいたします。

遺骨ご遺族の高齢化も増進し遺骨の発掘も増え、事故当時ご親類のお墓に遺骨を知らず埋められた、息子さんも引当になり遺族にとって父親と対面できる時間はもはや残されています。

本年、日韓両政府は、「過去の植民地支配に対する痛切な反省と心からのお詫び」を表明した1998年「日韓共同宣言」を再度両国の共通認識としました。であればこそ、朝鮮半島出身者の「遺骨問題」の早期解決が求められています。

犠牲者は長生も早稲も住居も家族も利用しているのにこれ以上放置することは、人道上からも許されません。戦争中に石炭産業で犠牲となったご遺骨を帰国から返送することは、どんな困難があろうとも日本政府の逃れられない責務です。

政府は、「遺骨の調査対象からはずすことはしない」としながら、技術と経費を理由に動かさずしません。私たちは「できない」ではなく、「どうしたらできるのか」を日本政府と具体的に詰めていきたいと思っています。現地を視察しなくても「できない」という政府の姿勢を改めさせましょう。この度の交渉には「韓国遺族会」も承目してその思いを訴えます。どうぞ、お一人でも多くの皆様が当日会場に駆けつけてくださいますよう、またこの行動への募金(¥128行動カンパ)と新聞の上、下記URLへをお寄せくださいますよう、心よりお願い申し上げます。

※なお、終了後、韓国から戻りのご遺骨のご情報をお知らせしています。詳細は下記をご覧ください。

【主催】長生炭鉱の水没事故犠牲者ご遺骨の故郷に刻む会 井上洋子 佐々木明美
〒753-0201 宇部市常盤町1-19-1 宇部緑橋教会内
TEL/FAX: 0836-21-8003 Mail: chouseitankou@chouseitankou.com
郵便番号 01590-7-32405 (〒128行動カンパ)と郵送してください

意見交換会の様子はYouTube配信予定です。YouTube配信のURLはHPをご覧ください。

詳しくは、同封のチラシをご参照ください。(チラシはホームページからもダウンロードできます。)

当日は YouTube 配信の予定です。配信URLはホームページにあります。

可能な方は、ぜひ当日会場に足を運んでください!

また、この行動への特別カンパをお願いしています。振込の際は、通信欄に「12.8行動カンパ」とお書き添えください。

ご協力よろしくお願いたします!

フィールドワーク報告

7/19(水) 放射能汚染水放流中止 日韓市民歩行行進 FW (6名)

「日本の汚染水放流反対」を掲げ、釜山から関釜フェリーに乗って下関港から徒歩で東京まで行くという日韓市民歩行行進の途中、長生炭鉱跡地を訪問していただきました。

当日はあいにくの雨でしたが、井上洋子共同代表の説明をしっかりと聞いていただきました。

※通訳して下さった鍬野保雄さん(左) 李元栄団長(右)



7/25(火) 韓国昌原(チャンウォン)大学 FW (11名) 参加者の感想

長生炭鉱の被害者の方々に、追悼の気持ちを抱きます。悲劇的な事件を広く伝えるために努力なさる先生方にも敬意を表します。
長生炭鉱で感じた思いや考えたことを記憶に刻み、歴史を学んでまいりたいと思います。長生炭鉱の悲劇が、よりよい社会をつくっていくための試金石として、広く知られていくことを願います。大切な学びの機会をいただき、感謝の気持ちをお伝えしたいです。

ミン・ギヨンテク (歴史学 大学院生)

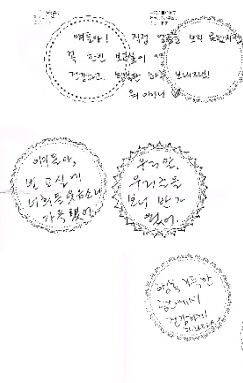
조세이 탄광의 피해자들을 추모합니다. 비극적인 사건을 널리 알리기 위해 노력하시는 선생님들께도 경의를 표합니다.
조세이 탄광에서 느꼈던 감정과 고민들을 기억하며, 역사에 대해 공부해나가겠습니다. 조세이 탄광의 비극이 더 나은 사회를 만들어나가기 위한 시금석으로써, 널리 알려지기를 기대합니다. 좋은 가르침에 감사를 전합니다.

- 민경택

あらためて自身の無知を思い知らされました。このことを教えてくださった内岡さん、ありがとうございます。記憶することということは行動すべきであるということ。努力いたします！

キム・ヒョン (国際関係学 大学院生)

다시금 제 무지를 마주했습니다. 이를 이해시켜주신 우치오카상 감사합니다. 기억한다는 것은 행동해야하는 것. 노력하겠습니다! - 효영



瞬間に変わっていく世界にあっても、忘れてはならないものが何かをあらためて考える時間となりました。やむことのない波音のように、悲しい歴史を記憶しつつ、新しい可能性へと変えていく方法を、私も微力ながら考えて参ります。とくに、案内して下さった情熱的な方々に感謝申しあげます。

ユ・ヒョンミ (女性学 教員)

빠르게 변하는 세상 속에서도 잊지 말아야 할 것이 무엇인지 되새기는 시간이었습니다. 그치지 않는 과도 소리처럼 슬픈 역사를 계속 기억하고 새로운 가능성으로 바꾸는 방법을 저도 미약하게나마 고민해보겠습니다. 열정적인 안내자 분들께 특별히 감사드립니다☆

유현미



歴史をただ机の上で勉強した私にとって、教科書に記録されていない歴史的な痛み的事实を、それを記憶し、伝えようとしてきている方々を通じて学ぶことができ、反省すべきことを強く感じる経験となりました。主流ではない日常を生きていく人々の話が与えてくれる教訓の価値を、深く学ばせていただき、ありがとうございます。

ソン・スジン (女性学 大学院生)

역사를 공부로만 배웠던 저에게 교과서로 기록되지 않은 아픈 역사적 사실을 이를 기억하고 알리고자 하시는 분들을 통해 배울 수 있어서 반성해야겠다는 마음이 많이 드는 경험이었습니다. 주류가 아닌 일상의 삶을 살아가는 사람들의 이야기가 주는 교훈의 가치를 깊이 깨달을 수 있게 해주셔서 감사합니다.

日本に来るまで海底炭鉱についてまったく知りませんでした。井上さんの案内と説明を聞き、文書記録の抽象性が、具体的な実感として迫ってきました。現場を訪れることで、想像を超える歴史の時間の実在を感じる事ができました。海岸で黙祷するとき、亡くなった方々の生を思うと、こみあげるものがありました。井上さんが、韓国でもこの問題を忘れずに記憶してほしいとおっしゃったとき、感謝とともに、私たちが何をすべきかを悩むことになりました。

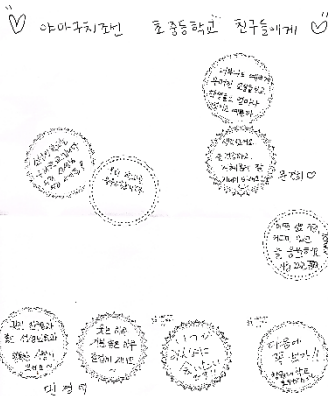
ともに記憶し、韓国のほかの方々にも長生炭鉱の事件を語り伝えたいと思います。

ソン・ソンスヒ (女性学 大学院生)

日本に 오기 전까지 해저 탄광에 대해 아는 바가 없었습니다. 이노우에상의 안내와 설명을 들으면서 문서기록의 추상성이 구체적으로 와 닿았습니다. 현장 방문을 통해 상상을 뛰어넘는 역사적 사건의 실제감을 느낄 수 있었습니다. 바다 앞에서 묵념할때, 돌아가신 분들의 삶을 떠올리니 울컥했습니다. 이노우에상께서 한국에서도 이 문제를 잊지말고 기억해 주세요라고 부탁하셨을때, 고마움과 함께 우리가 할 일을 고민해 보게 됩니다. 함께 기억하고 한국의 다른 분들께도 조세이 탄광의 사건을 나누겠습니다. 손선희(대구 계명대 여성학전공 박사수료)

悲劇の現場は、そこに何もなくても、簡単に意味づけしたり評価したりすることを拒む、時間の重みのようなものがあります。それをどうやって言葉にしていくか、また、これ以上産業や国策のために人の人生が犠牲にならないようにするには何をすればいいのか、そんなことを考える貴重な時間となりました。

丁田隆 (民俗学 教員)



毎日新聞取材!

7月28日(金)に毎日新聞の記者が取材に来られ、8月23日付の毎日新聞(山口版)に掲載されました。



7/29(土) 朝鮮総連青年同盟と朝鮮大学・学校教師 草刈及びFW(9名)



植民地過去清算の課題に向き合うために

許侑琳(ホユリム)

2023年7月29日、歴史保存活動の一環として長生炭鉱跡地の草刈りを企画しました。

参加者は山口朝鮮初中級学校出身の朝大生3人と山口朝鮮青年同盟6人(山口初中教員3人を含む)の計9人でした。草刈りには「長生炭鉱の水非常を歴史に刻む会」共同代表の井上洋子さんはじめ会員の方々も駆けつけてくれました。

30数度°Cを超える酷暑のなか草刈りを行いました。殉難者之碑の周りとそこに続く道を1時間ほど草刈りしましたがものすごい量でとても太刀打ちできませんでした。

1時間ほどの草刈りを終えて、「刻む会」の共同代表に案内され、フィールドワークを行いました。

殉難者之碑や海底炭鉱につながる坑口と思われる場所、「刻む会」が建てた追悼碑をまわりました。

事故当時水が垂れて危ない兆候があり、監督者は入るまいとする労働者をたいて中に入れ、働かせた結果事故に遭わせたとのこと。植民地下での不幸を強いられた犠牲者の遺骨を発掘する課題がありますが、事故当時坑口を閉め、逃げられなくし、またその30年後坑口自体埋めてしまったと聞きました。今は坑口の場所すら見当たりません。

歴史の加害を隠すように遺骨を取り出すこともなく坑口が埋められた事実が、植民地下での犯罪行為を反省することもなく、朝鮮人強制連行、

強制労働はなかったと平然と歴史歪曲をし、当然のように高校無償化から排除する罪の上塗り、恥の上塗りと相通じるものを感じさせました。

最後にピーヤ(坑道の排水、排気のための管)が浮かぶ海に向かって朝大生3人が献花を行いました。

未だ冷たい海底に取り残された犠牲者たち。永遠に、安らかに眠れるはずがありません。一刻も早く遺骨が発掘され海に献花をすることがなくなることを願います。

そのためには日本政府が植民地過去清算に向き合い、反省と謝罪、責任を取らねばなりません。

わたしは歴史を学び、教える者として、植民地過去清算という朝鮮民族の歴史的課題を解いていく者でありたいと強く思いました。

また、太刀打ちできない草の中でも「そこ」が長生炭鉱跡地であることがわかるのは、その場を記憶し、伝え、問題を解決しようとしてくださっている「刻む会」の方々をはじめとする多くの方々の地道な活動であることも実感しました。

これからも共に忘れまいという心を持ち、植民地過去清算の課題に向き合う「仲間」として手を携えていきましょう。



【主催者お礼】

医療生協健文会まちづくりの組合員活動支援部

中本亜矢子

戦争を背景に、宇部で多くの朝鮮人労働者が過酷な労働を強いられ、生き埋めにされたまま放置されている現実に、心がつぶれる思いが致しました。西岐波で幼少時代を過ごした60代の女性は、長生炭鉱のことはほとんど聞いたことがないと言われていました。80代の女性は、子どもはあの近くに行っではいけないと言われていたとのことでした。時代とはいえ、あったことがなかったことにされることは許されたいと思います。



会の活動は、大変貴重な活動ですね。大切な家族を人として埋葬したいと願うのは当然のことだと思えます。遺骨の発掘と返還に向けて今後も会の活動が発展することを心より願っています。

【参加者の感想(抜粋)】

■海がきれいだなと思っていたけど、家族から引き離され、強制的に働かされ、逃げようとすると思われ、日本も原爆を落とされましたが、昔日本も朝鮮の方々をひどく苦しめたことをしていたのだと、この海の下に命が沈んだと思うと、

自分の親がそんな目にあつたら家族は本当に苦しいだろうといやな気持ちになりました。

■当時の新聞報道の様子や創氏改名など驚くものが多く、忘れてはならない出来事だと感じました。

■今回のフィールドワークのように自分の足で現地に行き関係者の話を聞き事実を学ぶことが大切だと改めて思った。どんなにこの国が事実を認めなくても、実際に犠牲者が出ている限り認めざるをえないといけない。

■刻む会の方々もあの雑木林を歩きやすくしたり、国と交渉したり募金を募って碑を建てたりと、大変な苦勞をされたのだろうと感じた。

■炭鉱の事故だけでなく、普段からいかに劣悪な環境であったかを含め記録していくことが大事だと思いました。

■日本の加害の歴史を公にする、日本にとって隠しておきたいことを掘り返すのが、お前みたいな左翼だと言われますが、謙虚な気持ちで反省すべきは反省していくことが大事ですよ。

■犠牲者の家族からすれば「安らかに眠れ」すら激しい怒りの対象となることを知り、どれだけひどいことを日本がしたのか、その負の感情が遺族を縛り付けているか、少しわかった気がした。

■浅い所で作業していたり、朝鮮人労働者が多数働いていて犠牲になっていた事、今も埋まったままである事など、初めて聞く事はかりで、驚きの連続でした。

■私は結婚するまで東岐波で育ちましたが、長生炭鉱のことを何も知りませんでした。無理やり連れて来られた朝鮮の方々を思うと涙があふれ出ます。私の主人の両親も炭鉱で働いていたので、その労働の辛さはよく話に聞いています。そのうえ事故に会い、「遺骨もまだ引き上げられない」と、さぞかし無念だと思えます。

■以前、床波に住んでいたが、ピーヤが何か知らなかった。地元の方も危険だと働いていけない所へ朝鮮人の多くの方が働いていた事、強制的に連れてこられたくなるというむごい事実を今からでも正しく知ることは大切な事です。

■朝鮮人に対する差別をなくす運動はこれからの平和のためにかかせません。

■長生炭鉱について、知らないことが一杯あったので、勉強したいと思えます。皆さん、「刻む会」に入会して支えて下さい。

■私は長崎の軍艦島にも行き、そこでも朝鮮人労働者が過酷な労働と生活を監視されたことを知りました。私が20歳まで住んだ大牟田氏には三井三池三川炭鉱があり、戦後おじさんがその炭鉱で働いていて三交替でしたので、長生炭鉱は二交替と聞き、それだけでも過酷な労働条件だと思いました。

■日頃意識していないが、改めて加害者としての日本の責任を痛感しました。都合の悪い事をなかつた事として隠ぺいする政府に、きちんと認め心からの謝罪をしてほしい。

■自分が住んでいる(西岐波在住)地域のこともっと多くの人が知る必要があると強く感じます。特に若い子どもたちへの啓もう、教育をしたいと思います。

■こんな身近な場所にいたたまれない出来事があったという事を長年知らなかったという事に、何度も残念な気持ちになりました。水の中に残された方をいつかは母国にかえしてあげたいものです。

■事故の後、坑道を塞ぎ、報道もされず、事故そのものがなかったことにされ、当事者の家族の怒りと悲しみは計り知れないと思えます。「遺骨発掘・返還」を目標に会の活動を継続することの意味は大きいと思えます。

「笹の墓標展示館」再生全国巡回展 『下関展』を終えて

(山口・下関実行委員会共同代表)

内岡貞雄

九月二八(木)から三〇日(土)にかけて、「ロクスひよりやま」で「下関展」を行った。多くの皆さんの協力で盛会のうちに終えることができた。(来場者約九〇名、事前集約カンパー六万円、当日カンパ八五、四六〇円)

三日間の様子と感想を述べる。

【一五体の遺骨、韓国ソウル市立追慕墓地へ安置】

二〇一五年九月一七日、下関国際ターミナルを出港した関釜フェリー「はまゆう」は翌日の午前八時に釜山国際旅客ターミナルに入港した。船内では入国に備え遺骨を整理し、韓国の入国がスムーズにできるようにユン・ジョンクさんから先発隊が万全な準備した。一五体分の遺骨(三〇箱)を持つ皆さんは何事もなくプサン入りできた。プサン広場やソウル広場には一千人を超す市民が集まった。釜山市で遺族のソン・ヨンジンさんは「北海道の犠牲者は祖父の弟アン・テボクさん、祖父のアン・テサンの遺骨はまだ見つかっていないけど、とても嬉しいです」。ソウル市でキム・ソルオクさんは、「私が一歳の頃にアボジは連行された。遺骨だけでもアボジが戻ってきた。会いたいと思った時に会えるのがうれしい」。

八年前に下関で追悼会を行ったご縁が、今回の「下関展」に繋がった。共同代表 泉哲朗光明寺

住職の助言を得ながら、四月から六回にわたる実行委員会を経て当日を迎えた。

浄土真宗派の協力はもとより、市民、市民団体の支援は予想以上で、北九州市、下関市、宇部市、山口市などから来場くださった。



【写真1】
遺骨 115 体は 9/11 北海道を出発し最終地下関光明寺を経て韓国プサンに運ばれた。
写真の先頭殿平善彦さん(一乗寺住職)に続きチョン・ビョンホさん(漢陽大学校教授)、星野事務局長、遺族のキム・ギョンスさんとソン・ヨンジンさん。入国を前に少し緊張した面持ちだ。
(2015. 9. 18 ハンギョレ新聞)

【「笹の墓標展示館」絵画、和解と平和の光】

金英鉉(キム・ヨンヒョン)さんの講演はすばらしかった。彼は二〇一三年に東川(上川盆地)は中央部で行われた東アジア共同ワークショップ

(以下、共同WS。二〇〇一年に日韓共同WSを改称する)の遺骨発掘に参加し、二〇一九年から「笹の墓標展示館」再生のために深川市多度志へ移住する。その後、笹の墓標再生実行委員として全国各地を訪問する。その度に車とフェリーで深川市から展示品を運び、すでに総移動距離は二万キロを超えた。(地球半周の距離に相当)

このような彼にバイタリティーをもたらしたものは何か?その源は二〇〇九年二月、京都朝鮮第一初級学校襲撃事件にあった。朝鮮学校で民族教育を受け何不自由なく過ごしてきた彼に取って「自分って何だろう、しっかりとしたアイデンティティを持っていない自分に気付いた」。この事が一つの契機となる。同時に共同WSの存在も大きかった。

講演後、朝鮮学校長の発言をきっかけに多くの意見があった。

「下関は大変保守社会であるが、在日コリアンにとっては朝鮮半島から初めて渡日した場所でもある。日本の方々の応援を得ながら、在日同胞コミュニティをしっかりとしたもの築きあげることが大切」。講師のキムさんにも朝鮮学校の生徒さんから質問があった。「中学生の頃はどんなことを考えていましたか?」キムさん「何も考えなかったよ。ただ、二〇〇〇年六月の南北首脳会談で金大中(キム・デジュン)大統領と金正日(キム・ジョンイル)委員長が平壤空港で握手している様子を、すごく怖かった柔道部顧問の先生が大粒の涙を流されていたのは記憶にあります」。活発な意見交流が行われた。

頭寺には仏教でいう戒名が書かれている。旧光た朝鮮人男性之霊」と記された位牌があるが、これは他のお寺から移されたもので詳細は不明である。

【「死者」の位牌】

【写真 2】

講演中の在日朝鮮人 3 世金英鉉（キム・ヨンヒョン）さん。一部：全国巡回展、二部：アイデンティティを求めての内容を話された。

後ろの絵は 2022 年に大阪朝鮮中高級学校美術部の生徒さんが大阪実行委員会から依頼されて、夏休みに描いた絵画（横：4.5m 縦：1.6m）朱鞠内湖から森の林を通して一条の光りが注ぐ。これこそ平和の光。早朝の誰もいない展示会場でそう感じた。

(2023. 9. 28)



「死者」はものを言わないが、個として人格権を有している。人格権とは個人の人格的利益を保護するための権利のこと（小畑太作牧師）

光頭寺は一九三四年に浄土真宗末寺として創設、谷本睦甫（ぼくほ）住職が説教所を創設し、次男康（やすし）が主管者となった。現在は宗教法人を解散し本堂は一九九二年、空知民衆史講座に移譲され、一九九五年「笹の墓標展示館」として開館した。空知民衆史講座とは、一九七〇年に

北見を中心に起こった「オホーツク民衆史講座」等の歴史運動、民衆史掘り起こし運動に参加した、深川市とその周辺に住む教員、宗教者、市民が中心となって、一九七六年に「空知の民衆史を語る会」発足を土台としている。



【写真 3】

朝鮮人男性無縁三人
霊殺害サレタ朝鮮人
男性の霊と記された強
制労働犠牲者の位牌

【強制連行・強制労働】

戦時下、朝鮮人強制連行は一九三九年から始まる。「募集」「官斡旋」「徴用」に分かれるが、実質強制連行であった。以前は自主渡航で渡日しても甘言や欺罔によるものが多く、強制連行者も自主渡航者も強制労働では同じだった。

強制動員真相究明ネットワーク会員の竹内康人さんによると、日本国内に約八〇万人が強制連

行されたという。福岡（主に炭鉱）約一七万人、山口は数万、北海道では一四万五千人が動員され、明治半ばに囚人に代わってタコ部屋労働が始まった。タコ部屋に入れられた労働者は過酷な労働と栄養失調などに苦しんだ。北海道の強制動員朝鮮人はタコ部屋労働者と同じ扱いだった。飯場（合宿所）に押し込められ、二四時間監視下に置かれた。雨竜ダム工事、鉄道工事には日本人数千人、朝鮮人約三千人が過酷な労働に従事させられた（従事した）。幌加内町の「埋火葬認許証」によると、日本人犠牲者一六八人、朝鮮人犠牲者四五人、計二一三人の犠牲者が判明している。遺骨発掘は一九八〇年から現在まで継続中である。また、二〇一五年九月には、「70年ぶりの里帰り」と銘打ち、道内各地の一五体がソウル市立墓苑に安置される。なお、雨竜ダム工事で亡くなった韓国の犠牲者（空知民衆史講座メンバー）が韓国を訪問して出会った遺族）は四名になる。

二〇〇四年一二月の日韓首脳会談により、遺骨調査・返還が約束され、日本政府は「民間徴用者」遺骨調査を行ったが、現在まで、政府の手からは一体も返還されていない。

宇部の長生炭鉱の犠牲者一八三名（日本人四七名、朝鮮人一三六名）は水没事故後八一年にもなるのに海底下に放置されたままである。日本政府の謝罪とともに遺骸等の引き揚げを早急に実現してほしい。直系遺族の超高齢化で残された時間はない。

当時の国策で安全管理を怠った企業責任と、同時に国の不作為は絶対に許されないことである。

書記 山内弘恵

2023年9月30日(土) 13時30分から16時30分、栃木県総合文化センター(第1会議室)にて開催された。今回のテーマは「産業遺産と強制労働」。全体報告として最初に、「栃木県の朝鮮人強制労働調査・朝鮮人追悼碑について」日朝友好栃木県民の会の宇賀神文雄さんが話をされ、続いて「栃木の電源開発と朝鮮人+関東大震災と朝鮮人虐殺(栃木の場合)」を同会の内海隆男さんが講演された。このお二方は体を悪くされていて、この集会の準備も大変だっただろうと推測されるが、内容は長年の地道な活動・研究を元にした素晴らしいものだった。一緒に活動していた方々は既に逝去されているとお聞きし、私たち「刻む会」も山口武信代表を始め、発足当初から活動していた方々が次々に亡くなられていることと重なった。いかに次世代につなげていくのか、それが大きな問題なのだが、こうやって記録を残していくことが次の世代には大切なのだと痛感した。

全体報告の後半は「栃木の強制連行研究史」として、竹内康人さんが栃木県の強制連行の調査・研究の概要について、翌日のフィールドワークも念頭に置いた報告があった。

続いて、真相究明ネットワーク事務局の中田光信さんが「明治産業革命遺産・第45回世界遺産委員会の決議について」と題し、この間、真相究明ネットワークが取り組んでいる明治産業革命遺産の問題について、問題点を再度確認しながら、ユネスコへの働きかけを行ってきた結果、日本政

府に改善を求める決議があったにも関わらず、日本政府は反発し、今年の49回世界遺産委員会の決議は、更に、約束の実施の継続と新たな証言などの提示を求めるものだったことなどの報告がなされた。

全体報告の最後に、強制動員問題解決と過去清算のための共同行動の矢野秀喜さんより「徴用工」問題の現状についての報告があった。2018年の大法院判決、被告企業の在韓差し押さえ資産の売却―「現金化」を回避するための「解決策」として出された第三者弁済の問題についての概要と、それによって生じた原告たちの分断の問題、被害者の権利回復、問題の解決のためには、少なくとも被告企業の①謝罪、②償い金の支払い、③再発防止のための措置が不可欠であることを改めて確認し、日韓の市民が共同で運動を構築していくことが必要だと提起された。

全体報告の後、休憩をはさんで、各地からの報告が3本。1つ目は、韓国・民族問題研究所・植民地歴史博物館の金丞垠(キム・スンウン)さんの報告を野木香里さんが日本語で報告。6月から9月にかけて開催された「消えていく声―戦争と産業遺産・忘れられた犠牲者の話」という特別展の概要(世界遺産・強制労働・犠牲者の声、日本の産業遺産の現場と消えていく声、ユネスコ世界遺産と記憶の継承、もう一つの現場・佐渡鉱山)と声にならない声を証言者の表情から聞き取る場を設定したという、実際に使われた映像も交えての報告であった。

続いて2つ目に、岩手県釜石市における朝鮮人艦砲戦犠牲者の追加認定についてと題し、日本

製鉄元徴用工裁判を支援する会の山本直好さんからの報告があった。艦砲射撃の犠牲者名簿を作成するにあたっての朝鮮人犠牲者の扱いについての行政とのやり取り、そして5年もかかって7名の朝鮮人犠牲者を認定させることができたという報告があった。

最後に、「刻む会」から僭越ながら私が「海の墓標・ピーヤ」と題し、事故の概要及び「刻む会」の発足、ピーヤの説明板設置の経緯などを中心に報告し、来る12月8日の国との意見交換会への協力を呼び掛けた。

予定時間を30分超過して終了したが、どの報告も内容が濃く非常に有意義な全国集会だった。最後に、事務局メンバーの一人でもある大阪の塚崎昌之さんが、この集会で「栃木県での第3農耕勤務隊に動員された朝鮮人について」を発表する予定であったが、9月に急逝(享年67歳)されたためかなわなかったことも報告したい。

ご冥福をお祈りします。

※当日の資料集(A4版、90頁)は、真相究明ネットワークが700円(送料別途200円)で配布中です。

郵便振替 00930099297182

加入者名 真相究明ネット

ご希望の方は、右口座へ振り込み(900円)の上、直接お申し込みください。



2023年10月1日(日)
足尾鉾山のフィールドワーク



次に向かったのは**朝鮮人追悼碑**。
追悼碑を建てようとして場所を探し、専念寺小滝説教所跡に木製の追悼碑を建てたそうだが、その碑も十数年で朽ちてしまったため、今は木の柱一本しかない。
このフィールドワークの日程に合わせて追悼式が行われていて、参加者が合流。竹内康人さんが追悼の献歌を演奏してくださった。



↑ 朽ちる前の氏名を記した木製の追悼碑



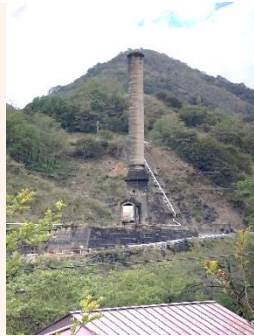
↑ 十数年で朽ちてしまった追悼碑

真相究明ネットワークの竹内康人さんの案内で、宇都宮駅を 8 時 30 分に出発し、1 時間半程度車で移動。最初に**小滝・中国人追悼碑**を見学。とても立派な碑であった。高さは 13 メートル、1973 年に建立。追悼碑の裏面には 109 人の死者の名前が刻まれている。



足尾銅山観光

坑内をトロッコで下り、坑道を歩く。資料も展示され、足尾鉾山での採掘、選鉱、製錬の概要を知ることができ、充実している。世界遺産登録を推進する動きがあるようだ。



製錬所跡



案内して下さった上岡さん。1933 年生まれ。とても 90 歳には見えない。戦後、足尾鉾山で労働運動を行うなか指名解雇されたが、裁判で闘い、解雇無効を勝ちとった。足尾町会議員を 8 期。著書で強制連行についても記している。



足尾の製錬所近くにある**龍蔵寺** 渡坑夫共同供養塔、栃木県監獄署 囚人合葬墓、松木村集合墓などがある。

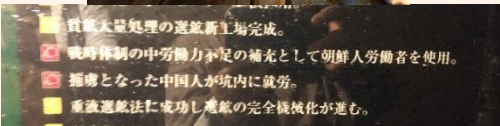


塩谷追悼碑 (2015 年建立)

日光鉾山で死亡した朝鮮人 4 人の名前が記されている。碑文には、厳しい労働を強い、その結果犠牲となったこと、過去を深く反省すること、友好と平和に向けて碑を建立することが記されている。裏には出身地、流盤(落盤)、発破などの死亡理由が記されている。



山の中の小さな墓地にひっそりと建っていた。



鉾山の歴史の説明板には朝鮮人の「使用」や中国人の「就労」については記されているが、強制の文字はない。連合軍捕虜についても記されていない。産業の技術賛美はあるが、公害や強制連行など、負の歴史に対する反省は見られない。

平和フェスタ 2023 (2023.10.1) 宇部市文化会館にて開催

運営委員 浅田徹

平和フェスタには多くの方が参加され、親子連れの方もたくさんいらっしゃっていました。

午前中の「はだしのゲン」上映会では、原爆の悲惨さ、戦争被害に巻き込まれた市民のつらさがありありと描かれ、涙ぐむ人も少なくありませんでした。

額厚先生の講演では、アメリカや大企業の思惑で日本が軍拡へと突き進んでいることがわかりやすく示され、平和と、それを作り上げていくことの大切さを改めて認識するよい機会になりました。



「刻む会」はパネル展示をしました。

島徹史顧問を偲んで

共同代表 井上洋子

9月8日明け方に島徹史顧問が逝去されました。享年89歳でした。私が「刻む会」発足の準備過程から共に活動してきた最後のお一人をとうとう見送ることとなり、33年間の歳月の無常さを感じました。

山口大学工学部の教授で、天皇からの叙勲をお断りしたほどの気骨の持ち主で、敬虔なクリスチャンでもありました。その島教授、山口武信元代表、澄田亀三郎牧師と、いわゆるインテリといわれる皆様の中に、「会議が暗いから洋子さんが入ってほしい」と友人から誘われて、飛び込んだ私は当時40歳でした。

知識のない私に分け隔てなく接して下さり、何度美味しい酒の席をもったことでしょうか。特に芋焼酎「黒霧」をこよなく愛し、これが僕の栄養だよとおっしゃって、私もいつの間にか、そのファンにさせられていました。娘さんが留学先で韓国の青年と縁をもたれて結婚され、韓国の親族との楽しい思い出もよく語ってくれました。

「刻む会」の精神的支柱となって下さり、追悼集会もご夫婦で出席されて、長年司会も務めてくださいました。カメラが大好きで、その都度写真を送ってくれました。

また、遺族会の総会等で何度も韓国へ足を運び、特に2006年に長生炭鉱の生存者2名が判明した折には、山口武信元代表と共に韓国で証言の聞き取りを行い、翌年お二人の生存者も追悼式に参加してくださいました。

最近では体調がおもわしくないにも関わらず、顧問として運営委員会に同席され、黙って皆さんの議論に耳を傾けておられました。4月10日、韓国の遺族会が訪日した折、体調がすぐれない中、緑橋教会まで出向いて下さり、遺族の皆さんと抱き合っておられた姿が最後となりました。

生涯をかけた献身的な活動に感謝申し上げ、必ず「遺骨発掘・返還」を成し遂げて、島教授はじめ亡くなられた先人の皆様にご報告できたらと思います。



4月10日、遺族会の皆さんと一緒に島徹史顧問(前列左から2人目)

日	活動
10/18(水)	び座談会参加(山口市) 政府交渉検討チーム会議(web)
10/11(水)	山口朝鮮初中級学校補助金カットに対する抗議座り込み行動及び座談会参加(山口市)
10/9(月)	政府交渉検討チーム会議(web)
10/6(金)	駐広島大韓民国「国慶節レセプション」参加(広島市)
10/1(日)	第15回強制動員真相研究集會加及び報告(宇都宮市)
9/30(土)	平和フェスタ・パネル展示(宇都宮市)
9/28(水)	第15回強制動員真相研究集會加及び報告(宇都宮市)
9/27(水)	笹の墓標展示館全国巡回展前日準備(下関市)
9/21(月)	政府交渉検討チーム会議(web)
9/18(金)	第6回運営委員会
9/15(金)	び座談会参加(山口市)
9/13(水)	山口朝鮮初中級学校補助金カットに対する抗議座り込み行動及
9/10(日)	韓国親音宗との打ち合わせ(web)
9/3(土)	健文会FW(20名)
8/31(木)	政府交渉検討チーム会議(web)
8/26(土)	習会参加(web) 真相研究ネットワーク事務局会議及び微用工問題についての学
8/23(水)	入れ及び座談会参加(山口市)
8/22(火)	山口朝鮮初中級学校補助金カットに対する学事文書課への申し
8/21(火)	平和フェスタ実行委員会
8/18(金)	第5回運営委員会
8/15(火)	の長生海岸での祈りの会
8/13(月)	BIYP日韓青少年交流 阿知須福祉の駅での集まり及びお盆
8/9(土)	真相研究ネットワーク事務局会議(web)
7/29(土)	朝鮮総連青年同盟と朝鮮大学・学校教師 草刈及びFW(9名)
7/28(金)	毎日新聞記者取材
7/25(火)	韓国昌原大学FW(11名)
7/21(水)	放射能汚染水放流中止 日韓市民歩行行進FW
7/20(水)	び座談会参加(山口市)
7/19(火)	山口朝鮮初中級学校補助金カットに対する抗議座り込み行動及
7/17(日)	第4回運営委員会
7/16(金)	韓国遺族会 韓国行政安全部との交渉
6/30(木)	笹の墓標展示館全国巡回展 第3回現地実行委員会(下関市)
6/22(金)	『たよりNo.89』発送作業

活動日誌(前回たより以降) 太字は記事掲載

会計報告(2023/4/1~2023/9/30)

【一般会計】

(円)

	科目	年度予算	期間実績	累計	達成率	備考
	歳入					
1	会費	580,000	231,000	231,000	39.8%	
2	寄付金	850,000	219,300	219,300	25.8%	※
3	物販	33,000	16,600	16,600	50.3%	
	証言・資料集	30,000	16,600	16,600	55.3%	
	その他	3,000	0	0	0.0%	
4	雑収入	4,000	0	0	0.0%	
5	前期繰越金	100,000	0	0	0.0%	
6	特別会計より繰入	0	0	0		
	合計	1,567,000	466,900	466,900	29.8%	

	科目	年度予算	期間実績	累計	達成率	備考
	歳出					
1	事務費	40,000	14,834	14,834	37.1%	
2	広報費	350,000	72,387	72,387	20.7%	会報誌送料・印刷他
3	会議費	72,000	0	0	0.0%	
4	追悼碑管理費	12,000	3,114	3,114	26.0%	電気代
5	活動費	930,000	63,414	63,414	6.8%	
	学習会等	100,000	12,880	12,880	12.9%	FW ハンドブック、他
	追悼集会	600,000	0	0	0.0%	
	その他活動	230,000	50,534	50,534	22.0%	総会経費、国慶日派遣
6	他団体会費等	40,000	35,000	35,000	87.5%	沖縄根之碑の会、笹の墓標展示会
7	雑支出	6,200	36,143	36,143	583.0%	
	手数料	6,000	2,143	2,143	35.7%	郵便局
	その他	200	34,000	34,000	17000.0%	使途不明含む
8	予備費	116,800			0.0%	
	小計	1,567,000	224,892	224,892	14.4%	
9	繰越金	0	242,008	242,008		
	合計	1,567,000	466,900	466,900	29.8%	

※寄付者(敬称略)

明戸 隆浩 石川 丈夫 井上 洋子 岩本 乾治 宇佐美節子 内田 功 小田 恵子
 景井 充 加藤 真 鎌田 清 川上 泰 岸本 武夫 杵渕 智子 国嶋 洋子
 けしば誠一 小暮 房子 榎 民子 新城せつこ 関谷 陽子 平子 友長 武永 佳子
 田崎 敏孝 寺尾 光身 林 美帆 福島 直子 福田 紀子 古川 雅基 増田恵津子
 三戸 清恵 本吉 真希 山泉 順子 山崎浩志郎 湧川 静子
 1923 関東朝鮮人大虐殺を記憶する行動 在日本朝鮮民主女性同盟山口県本部
 日本基督教団隠岐教会 愛知人権啓発企業連絡会 その他匿名 15 件

【追悼碑特別会計】

収入			支出		
科目	金額	備考	科目	金額	備考
繰越金	1,218,889		三面看板修繕	462,000	
			繰越金	756,889	
合計	1,218,889		合計	1,218,889	

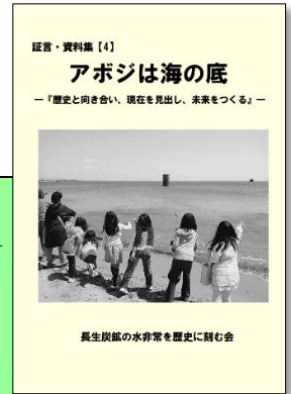
【遺骨収集等特別会計】

収入			支出		
科目	金額	備考	科目	金額	備考
繰越金	1,384,997		5/22 政府交	22,320	交通宿泊費補助
12/8 行動	3,000	大倉 一美	繰越金	1,365,677	
合計	1,387,997		合計	1,387,997	

以上感謝をもってご報告いたします。引き続きのご支援をお願い申し上げます。

書籍のご案内

「刻む会」発行
証言資料集 全4冊



絶賛！好評発売中！
頒布価格 1冊 300円
2冊セットで500円
3冊セットで700円

まだお持ちでない方！
ぜひお買い求め下さい！

新刊

フィールドワーク
ハンドブック
が
で
き
ま
し
た。
1冊 200円



日帝強制動員被害者支援財団翻訳叢書
も取り扱っています

5冊セットで頒布
送料・翻訳基金カンパをお願いします

- ・「朝鮮女子勤労挺身隊」労務動員の調査
- ・太平洋丸事件の調査
- ・北海道東川町江卸発電所強制動員被害真相調査
- ・タンコ（炭鉱）だって？
- ・強制動員名簿解題集2

4冊セット 3000円（送料込）

- ・報告書「朝鮮人 BC 級戦犯に対する真相調査—捕虜監視員の動員と戦犯処罰の実態を中心に—」
- ・報告書「ハワイ捕虜収容所における韓人捕虜に関する調査」+韓国語の「太平洋戦争実記集」（沖縄の阿嘉島への動員、特設水上勤務 103 中隊）
- ・口述記録集「朝鮮という私たちの国があったのだ」（大阪造兵廠、群馬中島飛行機、沼津軍属、佐世保、呉、東京陸軍被服廠、捕虜監視員など軍属として日本、東南アジア、中国への動員）
- ・口述記録集「ボンボン船に乗って海の幽霊になるところだったよ」（忠清道から福岡、長崎、佐賀など九州への動員）

ご希望の方は事務局までお問い合わせください。

今後の予定

- 2023年10月20日(金) 10:30~13:00 第6回運営委員会
- 2023年11月2日(木) 13:00~ 韓国・観音宗 追悼集会
- 2023年11月10日(金) 長生炭鉱問題解決協議会
- 2023年11月6日(木) 10:30~13:00 第7回運営委員会
- 2023年11月26日(日) 9:00~11:00 日本母親大会 in 山口 分科会
- 2023年12月8日(金) 15:00~ 国との意見交換会 衆議院第一議員会館 国際会議室
- 2024年2月3日(土) 長生炭鉱水没事故 82 周年犠牲者追悼集会

《同封物》
12.8 国との意見交換会チラシ 振替用紙



事務局より 会員動静 (2023年9月13日現在)
正会員 121名 (総会比-10名)
賛助会員 251名 (総会比-41名)
寄付者 109名 (総会比-14名)
計 484名 (総会比-65名)

総会后、経費削減のため、発送先名簿の整理を行いました。
3年間会費等未納の方は、原則、削除することとし、そのため、会員数が総会比で減少しています。ご理解下さい。

会員・寄付者募集中！知人・友人にぜひ一声お願いします！

